

2007年度 第8回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年12月11日（火） 午後7時15分～9時15分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、安岡厚子、柳澤正樹
山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：瀧島喜重<以上1名、敬称略>
事務局：齊藤 睦（地域福祉課長）、川崎 圭（主事）、今林朝香（コーディネーター）
平田典子（コーディネーター）、丸木 敦（係長）

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（11月）
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（12月）
資料 4：2007年度第4回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
資料 5：2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練実施報告
資料 6：2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練参加者アンケート
資料 7：2007年度第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 8：ボランティア・市民活動センターの今後の取り組み
追加資料：傾聴ボランティアの現在の活動

事務局：会議に入る前に、コーディネーター1名が12月末日で退職することになったのでご報告させていただきます。

委員長：それでは、運営委員会を始める。最初は報告事項から行う。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

11月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき11月に行われた主な事業についての報告が行われた。

委員長：質問や意見があれば出してほしい。

質問、意見なく、11月期の業務報告を終了する。

11月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告をしてほしい。

事務局より、資料2に基づき11月のコーディネート状況の報告が行われた。

委員長：コーディネート状況の報告があったが、このことについて質問、意見はあるか。

質問、意見なく、11月期のコーディネート状況の報告を終了する。

12月期の業務予定

委員長：では、12月の業務予定について説明してほしい。

事務局より、資料3に基づき12月期の業務についての説明がある。

委員長：質問はあるか。年末年始の業務はどのようになるのか。

事務局：年末は12月28日まで。年始は1月4日からの業務となる。

他に質問、意見なく、以上をもって12月期の業務予定の説明を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会および帰宅困難者対応訓練報告

事務局より、資料4に基づき、第4回災害時のシステムづくり専門委員会の報告および資料5,6に基づき2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練の実施報告がある。

委員長：帰宅困難者対応訓練に参加した運営委員のご意見、感想はどうか。

委員：災害時に指揮命令システムをどのように早く構築できるかが問題だと思った。学生の動きを見てみると、学生の場合は指示があってからいきいき動き始めるという状況だったように思う。

事務局：それぞれの部門ごとに統括責任者をおいたつもりだったが、あまりうまくいかなかったようだ。反省点としたい。

委員長：統括責任者は目立つ姿のほうがよかったかもしれない。

委員：自分がいた誘導地点では、誘導に立つ必要はなかった。みんな迷わずに駅へ向かっていたので、「お疲れ様でした」などの声かけをした。連合関係の参加者が多かったように思う。近所の人から何をしているのかを尋ねられた。この訓練の名称をもう少しわかりやすいものにしてはどうか。そうすればPR度も上がるのではないか。

委員：感想は他の委員とほとんど同じだが、誘導しているときに近くの人に「帰宅困難者は家がない人なのか」と聞かれた。この訓練のネーミングを考える必要があるのではと思った。誘導員の人数配置を考える必要があったと思う。

委員長：今後の動きはどうなるのか。

事務局：来年もこの訓練は行われるだろうが、西東京コースがあるとは限らない。西東京が直接コースにならなくても、実行委員会への関わりは必要ではないかと思っている。たとえば広報で協力したり、ゴール地点エイドステーション設置のノウハウの提供などは実行委員会の中でしていけるのではないかと思っている。

委員長：今回の協力者へのアプローチはどう考えるか。

事務局：今年度にあと1回、災害まちあるきワークショップを実施することになっているので、参加を呼びかけたいと思っている。

以上の意見、質問が出され、以上をもって第4回災害時のシステムづくり専門委員会、2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練の実施報告を終了する。2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練についての意見は、12月14日に行われる全体実行委員会で提案することとした。

2. 学 習 会

傾聴ボランティア活動について

【委員からの話】

6年前、ボランティア・市民活動センターにボランティア登録をして活動しているときに傾聴ボランティア講座があった。このときの講座の内容と自分のやりたいことが一致していたので講座に関わるようになり、講座修了者が作ったボランティアグループの顧問を現在している。

この傾聴ボランティアグループは、特別養護老人ホーム、グループホーム、高齢者在宅サービスセンターの利用者、在宅の方々を対象に活動している。個人情報の問題があったり傾聴への理解不足からまだまだ利用が少ない状況になっている。在宅の方の家の中に入りにくい状況になっている。5, 6年前からようやく傾聴という言葉が一般的になってきたように思う。テレビや新聞でも取り上げられ認知されるようになってきた。

傾聴とはどういうことなのかというと、「聴」という漢字から耳で聞き、目で聴き、心で聴くのが傾聴だというように理解する。聴くパターンとして、関心がない、一応聴く、関心のあることはところどころ聴く、話の腰を折る、自分の想像で聴く、つまり自分の都合のよいように聞く、というものがある。きちんと正確に相手の話を聞くということが少ないのではないかと思う。人の話を聴くという訓練が必要でそのために傾聴ボランティア講座があるのだと思う。話を聴くということには、話す人にとってもとても意味がある。話しをする側は、認められたいという思いがある。社会的弱者になったときには認められたいという気持ちが強いと思う。逆を言えば認められていない現状がある。感情を表に出したい、共感してほしい、受け止めてほしい、という気持ちが強い。一方で批判されたくないという気持ちもある。また自分で決めたいという感情もある。こうした気持ちを受け止めてくれる人がいないので、傾聴という活動が必要になってくるのではないかと思う。傾聴は、相手の言いたいことを全部聴かなくてはいけない。言いたいという気持ちを受け止めて、相手に戻す。傾聴することによって、相手のことを気にかけているということが話し手にわかり、話し手はほっとするのではないかと思う。聴くということは何の解決にもつながらないが、解決しようとする前向きな気持ちにさせることになるので、解決に向けての支援になる。そういったことを期待しながら活動している。ボランティア活動をする側もいろいろなことをいつも勉強させてもらっている。

【質問・意見交換】

委員長：質問や意見はあるか。

委員：個人情報の問題があるようだが、傾聴した相手に関してカウンセリングのカルテのようなものを作るのか。

委員：そういったものは作らないが、ボランティアは依頼者の家庭の状況を知ることになるので、依頼する側としてはボランティアを受け入れにくい面もある。

委員：ボランティアの身分の保証はどのようになっているのか。

委員：名札と傾聴ボランティア講座を修了したことが明記されているカードを持っている。西東京ボランティア・市民活動センターとつながっているということを依頼者に説明している。

委員：傾聴を活用するにはどのようにしたらよいのか。

委員：ボランティア・市民活動センターや傾聴ボランティアグループのメンバー、私に言ってもらえれば活動に入れる。依頼があったときには最初に、傾聴が成り立つかどうかを検討することになる。

委員：本人からの依頼が多いのか、家族からの依頼が多いのか。

委員：両方からの依頼がある。家族の場合は、その家族が自分の時間を少しでも作りたいからという理由で依頼してくることが多い。

委員：介護ヘルパーが利用者の話を聞くことは、介護保険サービスの内容になっていないのか。

委員：なっていない。

委員：6年間活動してきてずっと解決できない悩みはあるか。

委員：在宅者への活動が具体化されないということがある。家族が嫌がるケースも多々ある。

委員長：チャイルドラインでは聴き手を支える人が数人いるが、傾聴ではそういう人はいるのか。

委員：今は自分がその立場になっている。今のところそれほど難しいケースはないが、活動者の悩みなどを聴く人は必要だと思う。

委員：傾聴する時間は決まっているのか。

委員：双方の話し合いによって活動する時間を決めることになるが、だいたい1時間くらいになっている。私はグループのメンバーに相手の思いの避雷針になってほしいとよく言っている。

聴いたことを避雷針のように自分の中にためないで流すようにしてほしいと思っている。

委員長：ではこのへんで学習会を終了する。

3. 審 議 事 項

(1). 2007年度第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料7により、第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：訂正などの意見はあるか。

訂正、削除、追加などの意見なく第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2). 西東京ボランティア・市民活動センターのこれからについて

事務局より前回運営委員会で出された意見、今後のボランティア・市民活動センターの動きを考えるにあたって実行計画を作成していきたい旨の説明がある。

委員長：西東京ボランティア・市民活動センターは中間支援組織なので、市民活動団体を側面から支援していくということに間違いはないと思う。西東京ボランティア・市民活動センターの強化プランでは「対象とする人」「めざすもの」を大きな目標として掲げている。「めざすもの」については“つなげる、いかす、うみだす”これには政策提言ということも含まれるがこういったミッションをもって取り組んでいこうとしている。これを実現するために多様なコーディネート、生きた情報の収集と発信の拠点づくり、まなびの場と相互交流の場の提供、市民参加による新たな事業へのチャレンジということをうたっている。今回はこれらを実現していくための事業の部分を中心に考えていくということでしょうか。

事務局：そのような考え方でお願いしたい。

委員長：どのように進めるか。

事務局：中間支援組織を担うための戦略を強化プランの柱の中で議論をしていただきたいと考えている。

委員長：それでは、あり方をまず考え、それからどのような事業が必要かを考えていく。協働推進センターとしていくことが必要で、そのような提言を行政にしていくことが必要ではないかと思う。

どのような中間支援組織が必要だと考えるかの意見を出してほしい。19万人から20万人規模の自治体で元気な中間支援組織のあるところはないようだ。人口規模が倍くらいになると藤沢市にあると思う。そういう意味ではこれからの動き次第でモデルになるのではないかと思う。具体的なことでもよい。たとえば場所はここではだめだろうと思っている。そのようなことでもよいから意見を出してもらいたい。

委員：中間支援組織の基本方針は、市民活動団体が行政と協働するときに、行政に対して有利な交渉ができるように支援をする役割をもつことのように感じる。

委員長：市民が集まれる場所。人と人が集って何かが生まれる場所が必要だと思う。

委員：アスタの中がよい。買物のついでに気軽に立ち寄れるようなところがよい。府中市の女性センターのようなものが必要ではないか。

委員：携帯電話ショップのようなものをイメージする。話をすることは望まなくても情報をみて書き留めていけるようなスペースがあるとよい。それでは足りないという人には必要があれば話しを進めていけるような相談機能も同じスペースにあるとよいと思う。まさに携帯電話ショップだと思う。

委員長：若い人が育つ環境が大切だと思う。

委員：コンビニのスペースを半分もらうなどができるとよい。

委員長：インキュベーションというか、団体を育てるという機能も必要ではないかと思う。物理的な支援やファシリテート機能が大事だと思う。

委員：行政との関係は大事だと思う。西東京ボランティア・市民活動センターが行政との関係をどのようにもっていくかということは考える必要がある。行政にコントロールされない組織に

することが必要だと思う。下請けではない関係を作っていくことが必要ではないか。

委員長：今の西東京ボランティア・市民活動センターは、社会福祉協議会の傘下にあるが、どこにも属さない市民活動センターの機能をこの市においたときにどのような組織が必要かということも考えることも必要だと思う。

事務局：今のボランティア・市民活動センターには政策提言という機能が足りないのではないかと考えている。地域社会の課題をいち早く取り上げて対策を考え、問題提起していくようなことをしていかなければいけないと思う。

委員：そういう意味では、調査を市民活動団体とボランティア・市民活動センターが協働で行うなどの取り組みが必要ではないか。高齢者や地域の状況はどんどん変わってきているので、市民レベルで調査できないかと思っている。それをボランティア・市民活動センターと一緒にできないか。

委員長：社会資源づくりをしっかりとやっているところが今はないので、一つの特徴となるかもしれない。コーディネートについては職員はどのように考えているか。

事務局：今の西東京ボランティア・市民活動センターとしてはコーディネーターをおき、力を入れて取り組んではいるが、解決できない依頼に対してどのようにしていくかが取り組めていないので課題となっている。他の地区のボランティア・市民活動センターに比べるとしっかりとやっているのではないかと自負している。

委員長：強化プランの中の事業の4つの柱と中間支援組織のあり方を各委員の希望により事業項目を決めて考えてきていただくということによいか。

< 各委員の検討事業項目の分担 >

- (1). 中間支援組織の機能について・・・熊田委員
- (2). 多様なコーディネート・・・安岡委員
- (3). 生きた情報の収集と発信の拠点づくり・・・飯塚委員、柳澤委員
- (4). まなびの場と相互交流の場の提供・・・山下委員、渡辺委員
- (5). 市民参加による新たな事業へのチャレンジ・・・阿部委員、安岡委員

以上の分担により各項目について各委員が次回運営委員会までに考えてくることとした。

以上をもって、2007年度第8回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。